

花ちゃん、オー君、モンタ博士のかくかくドキドキ冒険4

国立市立国立第七小学校

平成28年6月28日 NO.27 (327)

- 子供 A 「モンタ博士！カタツムリを見つめました。」
- 子供 B 「見て見て、ダンゴムシもいっぱいとれました。」
- 子供 C 「きれいなタマムシもいました。」
- 子供 D 「オー君は、カミキリムシをつかまえたそうですよ。」



- オー君 「これは、ゴマダラカミキリというんですね。モンタ博士。」
- 花ちゃん 「さすがはオー君。昆虫にはくわしいね。」
- オー君 「もちろんさ。夏は昆虫の季節なんだ。これからは、いろいろな虫たちと会えるから、わくわくドキドキ楽しみなんだ。」
- 花ちゃん 「そういえば、校長室前にカブトムシのさなぎ状態のものがあつたけど、メスは成虫になりましたね。」
- オー君 「そうだね。ふつう、カブトムシは甲虫とよばれていて、固い体をしているけど、成虫になったばかりだから、とってもふにゃふにゃしていたね。」
- 花ちゃん 「へえー。そうなんだ。今度さわってみるわ。」
- オー君 「残念でした。もういなくなっちゃいました。ところで、モンタ博士、カミキリムシって、紙をきるのですか。」

モンタ博士「カミキリムシはね、紙切り虫ではなく、髪切り虫という意味さ。それでは、カミキリムシの七つの不思議のオンパレードだ。まず一つ目は、木の下に粉のような物が落ちていることがあるけど、それはカミキリムシのしわざだね。」

オー君 「ふーん。いいことを聞きました。今度探してみますね。」

モンタ博士「二つ目は、カミキリムシの成虫は固いけど、幼虫はぶよぶよなんだ。」

花ちゃん 「へえーそうなんですか。でも、ぶよぶよでも木の中を進めるのですか。」

モンタ博士「三つ目の不思議は、幼虫にも黒くで固くじょうぶな口があって、それで木をバリバリと食べてしまうんだよ。」

オー君 「へえー。すごいんだな。」

モンタ博士「四つ目の不思議は、幼虫にはじょうぶな口はあるが、目はないのさ。」

花ちゃん 「そうか。木の中は暗いから、目が見えなくてもいいというわけですね。」

モンタ博士「そのとおりだね。昆虫の体は、それぞれのくらしの様子から一番適した形へと変わっていくんだ。むずかしい言葉で、『進化』というんだよ。」

オー君 「進化か……。まあ、そのうちゆっくりとお勉強しますね。」

モンタ博士「そうだね。今は、自分のまわりのいろいろな生き物に興味や関心をもつことだね。そこで、いろいろ疑問をもったり、不思議に感じたりすればいいのさ。」

花ちゃん 「ところで、五つ目の不思議は何ですか。」

モンタ博士「幼虫には目もないが、音にも鈍感で音に気がつかないらしいよ。」

オー君 「へえー。そうなんですか。」

モンタ博士「六つ目は、においも鈍感ということなんだ。くさいにおいの葉っぱや、いいかおりの花をおいても知らん顔らしいよ。」

花ちゃん 「いろいろな不思議があるんですね。それで、最後の不思議は何ですか。」

モンタ博士「七つ目は、成虫になったばかりは、白っぽい体なんだ。少しすれば色や模様もついてきて立派な昆虫になるというわけなのさ。」

オー君 「国立七小の子供たちはいろいろな生き物をもってきてくれるから、とっても楽しいですね。お勉強にもなるし、すごいことですね。」

池田兄弟 「モンタ博士！アオダイショウを見つけてもってきました！」 次号に続く……。